

花無心 - 連綿の生命に目覚めるとき -

Like ingenuous flowers accept every being every life is connected and uninterrupted

野田 大燈（曹洞宗僧侶）
公益財団法人喝破道場理事長

ご紹介いただきました野田大燈でございます。この度「人間・植物関係学会，日本園芸療法学会合同国際シンポジウム」にお招きいただきまして有り難うございます。

私は 29 歳までサラリーマンをしまして寺院とは全く関係ないところで生活しておりました。よく尋ねられるのです「どうして坊さんになったのか」と。これを説明するとなると 2～3 日時間が必要ですので割愛させていただきます。

坊さんにはなったのですが，お寺の子ではないので修行を終えても帰る所がない。私は曹洞宗という禅の修行道場で修行させてもらいましたが，そこでは 95%がお寺のご子息でした。修行しないと住職になれないのです。住職の資格を得るために来ているのですね。

私はサラリーマンでしたので，禅宗のお坊さんと言えば，一休さんとか良寛さんとかそういう人達を想像して，実際に行ってみたら皆さんそれぞれがお寺のご子息で葬式・法事など檀家さん相手が仕事だったのです。私は坊さんにはなったけど帰る所がないのです。

いろいろ悩んだり考えたりしました。坊さんというのはお葬式や法事・法要をするのが仕事なのか？ いやそれは違う。調べてみると約 2,500 年前の仏教の開祖であるお釈迦様はお葬式や法事をしていないのです。

お釈迦様は生きた人の悩みや苦しみをどう除くか，どうすれば皆が幸せに生活出来るか，と言うことをテーマにお悟りを得られた後の 45 年間はずっと布教の旅をして来られたのです。

そうだ，お葬式や法事をしないで社会の為に奉仕するにはどうすればよいのか？ でもお坊さんはお葬式や法事をしないと収入がないのです。

いろいろ考えました。でも最低食べることは確保しなければ路頭に迷います。そして行き着いた所が自給自足の農業をやろう，と言うことでした。幸にも亡父が残してくれていた少しばかりの山林があり

ましたのでその地を拠点にしようと考えました。それが現在地の瀬戸内海国立公園内の五色台と言う海拔 400m の山の中でした。

しかし建物がないのです。自分の身を横たえる場所がないのです。そこで必死に考えました。どうすれば金も技術も道具もなくして建物が建てられるか，です。人は誰しも追い込まれると知恵が湧くものです。手品でも種がある訳で，全く何もないと何も出ないでしょうが，今までに体験したことや情報が眠っているのです。修行を了えた当時の私は 33 才でしたから頭の中には産まれてから 33 年間の情報があるわけです。

それは忘れていだけで必要がないから出てこない。本当に追い込まれて必要に迫れば出てくるのです。ある日，私はたまたま町の中を歩いていましたら，お醤油屋さんの裏庭に直径が 2 m 程の大きな醸造用の木の樽が放置されていました。この樽で醤油を醸造していたのですが，木材の樽は数年すると雑菌が湧きますので数年ごとに新しい樽に作り替えていたのです。

しかし時代は従来の木製樽から琺瑯引きの樽に移行してしまっていて，その醤油屋さんも入れ替えをしていたのです。

私はその醤油樽を見た瞬間「住める！」と直観しました。普通一般の人が醤油樽を目にして「住める」なんて思いませんよね。それは普通の人生を歩んでいらっしゃるからです。

でも私は本当に自分の身を横たえる場所がないのです。どうしたらいいだろうか？ 真剣に考えていると，古代人は自然の洞窟に住んだり，横穴を掘って住居としていたことを思い出しました。

そこで崖の斜面をスコップで掘って横穴住居にして住もうと思いつき，実際に鶴嘴とスコップで横穴掘りをしました。すると上の土や石が落っこちて来るのです。小石と砂地めいた地層では横穴が完成しても何時かは生き埋めになる可能性がありますので諦めました。でも諦める訳にはいかないのです。

人間とは恐ろしいもので，小学校高学年の頃に見た起承転結の四コマ漫画が頭に浮かんできたのです。こういう場面かということ，今様にいうホームレスさん

が夜になると直径 50 cm 程の給排水用の土管、今のコンクリート製のヒューム管に入って愛用の帽子を顔に被せて眠るのです。このハウスで冬の寒さを防ぎ、夏の暑さも凌げるのです。

この小学校の頃に一度だけ読んだ新聞の四コマ漫画が頭に浮かんだのです。そうだ私もこれを真似しよう、と山から降りて以前は土管の町として栄えた地区を訪ねました。

しかし時代は変遷して今では土管を製造している会社は既になくて、セメント製のヒューム管会社に代わっていました。

私は製造会社を訪問して使えないようなヒューム管を下さいませんか」とお願いしました。「どうするんだ」、「私は寝るところがないのでヒューム管で寝ようと思う」私は誠に真面目なのですが、応対している人にとって気遣いに思えたでしょうね。「わが社にはそのような用途に使用する製品はありません」と断られました。

何軒目かの会社で社員の方と同じような問答をしていますと、たまたま社長さんが外出先から戻られて「どうしたんだ」、「私は自分の身を置く場所がないので雨露を凌ぐ為にヒューム管が欲しいのです。破損していても結構です。ヒューム管を寄付してくれませんか…」社長さんは幾度か私の頭から爪先まで見て言いました。「分かった。着いてきなさい」そして裏の資材置き場に着くと、そこには直径が 30 cm 位から 1.5 m 位のヒューム管が所狭しと積まれてありました。社長さんが「どれでもいいから持っていきなさい」と言って立ち去りました。

私は嬉しくて感極まり社長さんの後姿を合掌低頭して見送りました。種々の寸法の物がありましたが私は蛇じゃないので 30 cm では身体が入りません。ヒューム管の中で身を起こして座するには約 1 m は必要だな、と判断しましたが、社長さんは「持って行け」とは言われたが「持って行ってやる」と言いませんでした。コンクリート製のヒューム管はとても重いのです。無料で頂けても弁慶でも持ち上がらなそうなのこのヒューム管を無一文の乞食坊主がどうして運搬するのか…！。

私は断念しました。そのような出来事もあってその醤油樽を見た瞬間に『住める!』と思ったのです。

横倒しの樽に近づいて縁の所に立って見たら私の背より高いのです。ということは、これを逆さまにして住まいにしたら立派な住居になるではないか…。

そこで社長さんに樽を譲って頂けるようお願いしました。「この樽を何に使うのだ?」と問われましたが、先回のヒューム管のことがありましたので「住居に…」とは答えられず、マゴマゴしていますと「そうか、先般ミカン農家の方が灌水用の容器に使いたい、と言って来たので差し上げたが坊さんもミカンを栽培し

ていて灌水用に使うのか」、と聞かれましたので「そうです、そうです。灌水用に使いますので…」。

難なく無料で頂きました。しかし直径が 2 m × 高さ 2 m 程の樽ですので運搬が大変です。

そのままの状態では大きすぎて運搬出来ませんので、一枚一枚バラバラにして友人に借りた軽トラック運びました。この杉板は節のない良質なもので、一枚一枚のつなぎ目は竹釘が使用されていました。普通の金釘でしたら醤油には塩分を含んでいますので腐食してしまうので江戸時代から竹釘が使用されていたそうです。

醤油屋さんの裏庭で樽をバラバラにして軽トラックで県道入口まで運んで、後は道なき道を担いで運びました。山林の中の空間を見つけて周囲の石を集めて来て円形の土台を作り、その上に樽の板を組み合わせ組み立てて行きました。右側の方が室内です。



只管打坐

ああ、これで念願の庵が完成した…！ 嬉しかったですね。室内の所々に白いのが見えていますがあれは紙を貼ったものではなく、壁の隙間から光が入っているのです。要する最初から隙間だらけなのです。この樽で 2 年間起居しました。



喝破道場の第一歩

屋根は山に自生しているカヤを使いました。屋根が丸いので頭頂部から雨が漏ってくるのです。そこでコウモリ傘を中央に立てて雨漏りを防ぎました。

乞食坊主の私には身に過ぎた立派な建物で「知足庵」と命名しました。足ることを知る、これで充分です、という意味です。その後、捨ててあったトタン板を集めて、あのように六面形にしました。困りましたのはこれも頭頂部でした。あの写真をご覧になって頭頂部の丸いものは何だと思いませんか。捨てられていた鍋なのです。未だに健在です。



この状態がもともとの出発ですから私が平凡なお寺の坊さんではないということをまずお知りおき頂けたらと思います。

根っからの坊さんでない、純粹培養された坊さんでないからこそ様々な経験をさせて頂き、そのことが私の発想の原点になっていると思います。

一応お寺ではありますが、誰もお寺とは言ってくれません。通称「喝破道場」で昭和50年代初頭から不登校児童や所謂非行青少年、そして現在は刑期を終えた人達で刑務所から出て行き場のない方々も自給自足の禅の教えに基づいて一緒に生活しております。現在は社会福祉法人も併設されて児童養護施設や児童心理治療施設、自立援助ホーム等も運営しています。

四恩グループ

- | | |
|---------|----------|
| 1. 父母の恩 | 2. 社会の恩 |
| 3. 郷里の恩 | 4. 大自然の恩 |

宗教法人 報四恩精舎 宗教法人 円通寺

公益財団法人 喝破道場

若者自立塾 ペアハウス「随流荘」
ハーブ公園 ハーブ喫茶「ゼルコバ」

社会福祉法人 四恩の里

情緒障害児短期治療施設「若竹学園」
児童養護施設「亀山学園」
自立援助ホーム「なごみハウス園」

最近は被虐待児や発達障害の児童が増えています。職員体制としての精神科医、臨床心理士、看護師の医療チームと、子ども達は24時間生活をしているので保育士さん指導員さん、そして教育部門として地元の分級校として教師が常駐して下さって、小学校、中学校の授業を行ってくれていますが、彼らにとって治療として最も有効な事は「大自然」だと実感しています。

彼らの入所以前の日常生活は起床時間や食事など不自然なものであったと思います。医療による治療も必要ですが、先ず規則正しい生活と四季折々の自然に接して自然のリズムを取り戻すことだと思いました。学園設立当初は食事の野菜等は栄養士さんが先頭に立って園生と一緒に栽培していました。栄養士さんが栽培している野菜の収穫期を計算してメニューを作っていました。その後はアロマテラピーとしてハーブ園も運営しています。

これは若竹学園です。この変な格好をしている建物はオーム真理教の第7サティアンと陰口されていたお寺の建物です。どう見てもお寺の恰好をしていないのです。



四恩の里グループ拠点

四恩の里グループ拠点

今でもお寺を改築や新築する時には700年前の鎌倉様式とかで造ったりしますが私の考えからすると、寺院はまさに令和の時代の最先端の建物でなければならないのではないかと考えています。これが私どもの拠点ということです。

公益財団法人 喝破道場

- ・社会的包摂・「絆」再生事業(国庫補助事業)
- ・○ 若者自立塾
- ・生活保護受給者就労支援(市補助事業)
- ・○ ローズマリーの会
- ・ニート・引きこもり・生活困窮相談室

本体の喝破道場では生活保護受給者就労支援として、地元香川県下の高松市と坂出市・善通寺市の3市から、生活保護を受給されている方が3ヶ月クールで参ります。国の方針で早く生活保護生活から脱して自立して欲しい、就労して欲しいということで私どもに受け入れの打診がありました。「どうして私どもなのですか」と問うと「和尚さんの所にはハーブ園があるでしょう。就労支援の一助としてハーブ園の手入れをさせて欲しい」と言うことでした。ハーブ園で就労訓練をしている市町村は全国でも珍しいのではないのでしょうか。そして何と就労率50パーセントだと福祉課のワーカーが言っていました。これもアロマテラピー効果だと思います。

これは坐禅堂です。学園の子どもたちも定期的に坐禅を組んでいます。



坐禅堂



暁天・夕刻の坐禅

これはスポーツチャンバラといって、剣道の原型とも言えるチャンバラを現代的にしたものです。



子どもたちの中には虐待だとか、鬱の関係で身体が凝り固まって動けない傾向があります。この状態を改善するのに何が良い手立てはないものか、という考えた末にスポーツチャンバラと言うものがある事を知りまして導入しました。

これは剣の形になっていますが剣は柔らかく包まれていて当たっても痛くない。これなら思いっきり叩ける、叩かれても痛くない。特に被虐待の子ども達は身体全体が緊張していてなかなか身体が動きませんが、面白味もあって徐々に子ども達の身体が動くようになってきます。心を閉じていると身体まで閉じてしまって動かなくなっていくのですね。



これは春先ですが、海拔400mの上ですから、筍があつたり、イタドリがあつたり、ワラビがあつたり、本当に自然がいっぱいです。これは自給自足の共同生活をしている我々の宿命ですが、筍が出だすとだいたい3ヶ月は毎日筍を食べることになります。身体に良いか分かりませんが、みんなにこにこしています。みんな引き籠りですよ。このボランティアのおばちゃんは違いますが。

これはもともと川崎重工の保養所だったのですが譲って頂きました。現在私どもはアニマルセラピーとしてヤギを飼っています。8頭いまして全部女の子です。私はハーレムにいるのです。



アニマルセラピー

その女子たちの歓心を得るためには毎日草を刈らなければならないのです。今回ここへ来るために3日分の草を刈って参りました。このヤギはシバ山羊と言いまして、そんなに大きくなくて子ども達にも扱い易い体型なのです。



アニマルセラピーとしての位置づけですので、授業を終えてから子ども達が餌を与えたり散歩をさせたりしていますが、中にはヤギの背中に乗って歩いたりする子供もいます。何だかヤギも楽しそうなのです。飼育方法は山の斜面に柵を設けての放し飼いですので、話を聞きつけて外部から見学に来られる人たちもおられます。

多くの児童が発達障害ですので問題が起きて当然、と言うのが児童福祉現場の常識ですが、トラブルを起こした児童が無断外出をすることもあります。Aちゃんの場合の行き先はヤギ小屋なのです。「〇〇ちゃんがない」、「じゃあヤギ小屋だ」、ヤギ小屋に行くと〇〇ちゃんは大好きな仔やぎをなでなでしているのです。アニマルセラピーですよ。

これが児童心理治療施設「若竹学園」の建物です。



情緒障害児短期治療施設「若竹学園」

これは児童養護施設「亀山学園」です。これはハーブ喫茶ですが、どうしてこれを作ったかという、子ども達の自立のために何が良いだろうか。対人関係が駄目なので喫茶店であればお客さんが来ますから、開店前に掃除をしたり、食器を洗ったり整理整

頓して開店準備をして「いらっしゃいませ」「ご注文は?」「ありがとうございました」と喫茶店の効能はすごいのです。喫茶店を作りはしましたが、山の中ですのでお客さんは来ません。



児童養護施設「亀山学園」

そこで桜の時期ではなくとも児童相談所の職員の方や知り合いの方にサクラで来て頂いています。

子どもたちはちゃんと喫茶店の制服を着ましてお水を持って「いらっしゃいませ」とやっております。これが大事なですね。



ハーブ喫茶「ゼルコバ」

農業生産法人 四恩ファーム

五色台ハーブ園

「癒しの丘」(ヘリポートのあるハーブ園)

ハーブ専門喫茶

「ゼルコバ」

これはハーブ園でして、この辺り一帯はローズマリーが5,000㎡植わっています。私もこんなに植えるつもりはなかったのですが、親しくさせて頂いていました今は亡き早稲田大学で心理学を教えておられた春木豊名誉教授が「和尚、私が顧問をしているハーブ研究所の所長にハーブ園の話をするに興味を持って伺いたい、と言っているからお連れするから」とのことで、お越し下さいました。



五色台ハーブ園

無口な方でしたが、ハーブ園を隈なく廻られて「和尚さんは本当にやる気があるの?」と問われるのです。「勿論ありますよ。この一角には約 100 種類のハーブが植わっています」。

先生は、「じゃあ、申し上げますがこの程度のハーブ園は全国に腐るほどあります。和尚が本当にやりたいのならば突出しなければならない」、「突出とはどういうことですか」、「和尚さん、北海道の富良野と言ったら何を思いますか」、「富良野は有名ですね。ラベンダーですね」「そうですね。皆さんはラベンダーと耳にしたら富良野を思い浮かべるのです。これです。和尚さんが本当にハーブ園をやろうと思うなら、それくらいやらないと駄目ですよ」、私は目が点になりました。

私も富良野にハーブ栽培の見学に行きましたがご存知のように規模が違います。広大な北海道だからこそだと思いますが人を魅入らすスケールを持っています。先生は山林の部分指さして「この一角を伐採してローズマリーを植えなさい」、すごいことを言いますね。その山林部分の面積は約 5 0 0 0 ㎡です。「えっ、ローズマリーですか。どうしてですか?」、「私の見た限りではこの土質は酸性土壌で地形も地中海に似ています。植えるならローズマリー以外は適さないでしょう」。後で聞いたらローズマリーは肥沃な土地は駄目で、痩せ地が良いですね。

「剥ぎなさい」と言われて私は馬鹿正直なところがありますので「はい、分かりました」、と言う事で、言われた通りに 5000 ㎡の山林全部の伐採開発を業者に委託して着手したのです。

私の弟子が「和尚、どうするのですか。こんな大工事をして…」、「ここにローズマリーを植える」、「ローズマリーは既に植わっているじゃないですか」「それはそうだが、東京の先生がここに全部ローズマリーを植えろと言われたから植える」、「植えてどうするのですか」、「どうするかこうするかは聞いていないから分からない」、とは言いながらも私の頭の中に

はおぼろげながらも成長したローズマリー畑で多くのボランティアの人たちが嬉々として作業している姿が見えていました。

あきれ返っている弟子たちを尻目に伐採工事は完了しました。「和尚さん、どうぞ気が済むまでおやりください。我々は手が回らないのでお手伝いは出来ません」そのような反対の中で、学園の子ども達や知人の手助けでローズマリーを植えました。5,000 ㎡です。私も皆が言うようにこれを植えてどうなるのかな、と思いました。いい加減な和尚ですね。

植えてしばらくしたら、たまたま訪ねて来られた方が、「和尚さん、これはローズマリーじゃないですか」、「よくご存じですね。そうですよ」、「ローズマリーをこんなに植えてどうするのですか」、「どうするって、ある方が植えろと言われたから植えただけで私にも判らないのです」、「えっ、植えろと言われたから植えたのですか?…、わかりました。ローズマリーの精油を採ろうとしているのですね」、「精油って何ですか?」全然知識がないのです。「蒸留すれば化粧水になるでしょう」。その方はあきれて帰ってしまいました。

化粧水になる、と言う事を聞いて私はインターネットで調べてみました。確かに蒸留すればローズマリーの化粧水が取れるようです。

しかし 5,000 ㎡ものローズマリーはそのうちに放置しておいても徐々に成長して行くのです。でも不思議と内心は落ち着いていて楽観的なのです。ローズマリーウオーターも作りました。そしてその効果に驚きもしましたが収益には繋がりませんでした。

ある時にエスビー食品の社員の方がやって来て「この 5,000 ㎡のハーブを私どもに卸して下さい」と言うのです。「えっ、何に使用するの?」と問うと、「実はクリスマス前後になると需要が大きくて関東からローズマリーがなくなってしまうのです」とのことで、弟子にも散々馬鹿にされましたが売り口がつかしました。

最近本体のローズマリー畑の物でしたが、品薄になると私が隣接する学園に植えていたローズマリーまで出荷しているのです。毎年秋から冬場にかけて全体のローズマリーはほとんど丸坊主状態なのです。人間っておかしいですね。

これはハーブの前での摘み取り作業ですね。ここにはいろんな子どもたちがいます。この子どもたちにとって、あるいは就労支援に欠かせないのがアロマセラピーです。

この香りがどれほどの効果があるかということ、私は身を持って経験をさせて頂いていました。特にローズマリーは面白いですね。草取りや収穫作業を通してアロマ効果で元気になるのです。肥料は全くやっておりません。ハーブに肥料をやると匂いがぼ

けちゃうのですね。元来野生のものにそういうことをすると駄目になるのです。人間もそうじゃないですか。要するに過保護は駄目なのです。肥料をやらないから一生懸命自分で栄養素を吸収しようとするのです。だからハーブには薬効があるのだと思います。



ハーブの摘み取り(ゼルコバハウス前)

ハーブの摘み取り(ゼルコバハウス前)

どうして私がハーブに関わるようになったかと申しますと、25年ほど前でしょうか、第一次ハーブブームがありました。当時は外国からのハーブティが主流でした。日本人は初めてだから味がよく分からないのです。外国から入ってきたハーブ類には必ず防腐剤や添加物が入っています。その添加物まじりのものを飲んでいました。

本来の味ではなかったけれども日本人は飲んだことがないから、これがハーブというものだと思っていました。「私この頃ハーブに凝っているの」と言っていたのですが、その後徐々に離れて行きました。これがハーブの第一ブームだったと思います。

その頃、中にはマイガーデンとして自分の庭でハーブを作る人もおられました。ある方から、「和尚、ハーブの苗を差し上げよう」と頂きましたが、当時私は恥ずかしながらハーブというのはハーブという特定の苗があるものだと思っていました。そのハーブなるものはどんどんと成長して広がって行くのです。後で分かったのですがミントでした。

当時、若竹学園という施設では統合失調症の子どもが入所しておりました。お父さんはA精神病院、お母さんはB精神病院に入院中で彼は遺伝による統合失調症ですね。

当時は薬の効用もよく分かっていなかったのでしょう、薬の過剰投与で彼は何時も気分が悪くてフラフラしている。よだれが出て呂律が回らない、暴れるから押さえられる…。そんな状態で関わっていたのです。当時の私もその方法しかないのだろうと思っていました。

彼が中学校を卒業しました。でも両親とも精神病院に入院中ですので帰るところがないのです。児童

相談所の方から「申し訳ないが、この子を引き続き学園で見てもらえないか」と言われましたが、正規には中学を卒業しているので預かれないのです。「そこを何とか」と頼み込まれて受け入れることにしましたが、中学校を既に卒業しているので学校の授業が受けられないので時間をもて余します。彼に一人の職員を付けるわけにはいかないので、どうしたらよいか、と言う事になりました。「一番暇なのは園長ではないですか」「えっ、俺が看るの?」。仕方がないので朝から畑に連れて行って草を抜いたりしますが、薬が効いているので作業持続時間は10分か15分で、すぐに飽きちゃって、「もうやだ」となる。

ある時大根の種を播いて芽が出て来て暫くすると雑草も出てきたので「ではこの雑草を抜こうか」と言って二人して雑草を抜いていたのですがここに落とし穴がありまして、私が説明したから彼も分かるだろう、と思って振りかえると彼は雑草を残して大根を抜いているのです。それは彼に理解できるように説明しなかった私の責任です。

こんな状態の時にミントも成長して同じく雑草が段々はびこって来ました。二人してミント畑の雑草を抜いていますと急な来客です。彼の作業継続時間は10分～15分しか続きませんが「続けて草を抜いていてね」と言って少し離れたところで来客と話していました。このような時に限ってお客は帰らないのです。20分過ぎると私はいらいらしながらも来客と話していました。

やっと来客が帰ったので慌ててミント畑に行くと、なんと彼が作業をしていたのです。ああ、彼は怒っているなと思って、「ごめん、ごめん、もう帰ろうか」というと「園長、もっとやりたい」、「えっ、いま何て言った?」、「もっとやりたい」、「どうして」、「だって気持ええもん」。驚きました。彼にはこのミントの香りが合っていたのですね。

それから私はハーブの効能に興味を抱き、市内のハーブセンターという店に行きまして、店の人に「すいません、ハーブ下さい」と言いましたら、「どのようなハーブでございますか」、「だからハーブですよ」店員さんはとても困ったような顔をして「ちょっと待って下さい」と言って奥に行きました。暫く出てこないのです。暫くして今度は白衣を来た薬剤師の店長さんがやって来て、「ハーブにはいろんな種類がありまして…」、「えっ、ハーブって一種類じゃないの」、「いえ、いろいろあるのです」、初めて私はハーブにいろいろな品種があることを知ったのです。それほど無知でした。

そんな出発でしたが徐々にハーブの勉強をしていることが分かりました。つまり心を静める作用、興奮させる作用の二種類がある。面白いじゃないかと考えました。

左の端から右の端に向けて興奮作用のあるハーブを植えて、半ばから徐々に鎮静作用のあるハーブを植える。興奮気味の子供は左の方からハーブに触れさしながら右に移動させる過程で徐々に子供の精神が安定してくる…。落ち込み気味の子供はその反対コースを辿らせは共に効果が上がる…。凄い、こんなことを考える自分は天才だろうか！等と考えている時に、愛知学院大学の心理学の教授が生徒の就職依頼で来られた。私は得々と持論を展開していると「園長さん、これは『同質の原理』と言う心理学の立場から言うと間違っていますよ」と窘められました。興奮している人間を最初から強制的に鎮静させたらおかしくなる。興奮している時は興奮する香りから徐々に鎮静に向かわせないとならない」とのこと。真逆だったのです。このようなことを勉強しながらやってまいりました。

このような実践を通しての学びを積み重ねながら様々な特性を持つ子ども達と関わってきました中で、自然の持つ治癒力に畏怖心すら感じました。

もう一つ、私どもは禅寺ですので専用の坐禅堂があります。坐禅を専門に組む場所ですが、ここで子ども達も坐禅を組んでいます。私は去年に若竹学園の園長を退きまして今は法人全体の理事長ですが、しばらくの間坐禅をしておりますと、先生が「和尚さん、子ども達が坐禅をしたいというのです」、「えっ、うそでしょう。坐禅をしたいなんて。子ども達が」。

私も29歳で出家以来毎年12月は臘八接心です。今日は12月7日ですが、修行道場では8日間坐禅を組みっぱなしです。修行中には、先輩の意地の悪そうな顔をした人が棒をもちまして、微塵も動く間髪を入れずに右肩を桎の棒で出来た警策でパーンと叩くのですよ。特に機嫌の悪いときは、ぼんぼん叩きます。叩かれるのは痛いし、足は痛いし、私は坐禅が大嫌いになったのです。でも坐禅は基本的修行ですので逃げられません。修行当時はそういう日々を過ごしていました。

その私の嫌いだった坐禅を子ども達がどうして「坐禅をしたい!」と言うのだろうか？ と不思議でした。

児童心理治療施設だから発達障害を有する子ども達が入所しているのですが、ADHD(注意欠陥多動性障害)やアスペルガー、学習障害などさまざまな症状を持った小学2年生から中学3年生までいます。その子ども達に「どうして坐禅を組みたいの」と質問すると、何と答えたかと思いませんか。「気持ちええもん」と言ったのです。私は「えっいま何て言った?」「気持ちええもん」。私は今までに坐禅をして気持ちいいなんて思ったことは一度もありません。

どうして子ども達は気持ちが良いのかと考えまし

た。そうすると坐禅は畳一枚に一人ずつ並んで坐ります。学園内では人間関係の持ち方が下手な子ども達ですので、話をしたり、行動する中でイジメのようなことも起こります。しかしこの畳一枚一枚の中には自分一人なのです。誰も干渉して来ません。加えて私が警策を持って怖い顔して廻っていますので誰からも干渉されない安心の時間なのです。

私は子ども達に「いいかね。坐禅はリラックスだよ。何も考えなくていいんだ。安心してリラックスね」。子ども達には分かるのですね。だいたい20分から30分坐禅をしますが子ども達は一人も動かないのです。驚きですよ。だって無意識に動いてしまうADHDの児童も居るのですから。

先生は言いました、「君たちは授業中にあれほど騒ぐのにどうして坐禅中はじっとしているのだ。坐禅と同じように教室でもじっとしていなさい」と言う。「うるせいや」と言っています。どうしてでしょう。子どもが言った「気持ちええもん」ということ、何も考えず、誰からも干渉されずにじっと坐っている、これじゃないかと思います。

坐禅が始まる前と終わった後の子ども達は元の子供に戻って鐘は叩くわ、走り回るわ、座布団を投げ合うわ…。この落差。しかし間違えなく子ども達は20分～30分間じっと坐っていることが出来たのです。

私は特にADHDのじっとしていられない子ども達がどうしてじっとしていられるのかが不思議でならないのです。ひょっとすると精神科医が病名を間違えたのかもしれない。けれど日常生活を見ていると間違いなくADHDなのです。

道元禅師がお書きになられた、『普勸坐禅儀』という四六駢儷体のややこしい書物がありますが、これは坐禅の入門書でその最後にこういうことが書いてあるのです。今まで充分に理解出来なかったのです。

「宝蔵自ら開いて受用如意ならん」、宝蔵は宝の蔵です。坐禅をするのは何のためか、突き詰めて行ったら宝の蔵を開けるためですよ。

宝って何？ 私は今にしてやっと分かりました。いま私が此処に存在します。それは父母の両親がいたからです。ただ単に私と両親がいて私がいるのではないのです。その両親にまた両親がいました。その両親にまたまた両親がいました。辿ればどこまで行くでしょう。私一人じゃない、連綿の命でいま私があるわけです。その宝蔵とは何か。連綿の命は過去世から様々な経験をしています。氷河期もあったでしょう、戦争もあったでしょう。殺されそうになった体験もあったでしょう。そういう体験を私は知識としてではなく、DNAとして私の身体の中で引き継いでいるのです。

この宝蔵というのは、その深い潜在意識と体験を

言っているのではないか。道元禅師は修行することによって、全ての事が明らかになる、と仰られているのです。

私の好きな方で二宮尊徳翁という方がいらっしゃいました。この方がこう言っています。「この秋は雨か嵐か知らねども今日のつとめの田草取るなり」、種を播いた時点でどうして収穫の秋のことが分かりますか。どんな災難が訪れるか分かりません。今年の秋は嵐が来るだろうから絶対に収穫できない。だったらお米を栽培しなければいい、と言う事になります。そうではない。春が来たら種を播いて、草を取って、水をやって、育てていく。日々それを淡々とやる。秋を迎える、もちろん不作のこともあります。台風もあります。地震もあります。自然災害もあります。どんなことがあろうとも、だからどうこうではなく、今のつとめをする。これは素晴らしいと思います。私はこの言葉が大好きです。

また、子供たちとかくれんぼや手毬について遊んだと言う良寛さんは私と同じ曹洞宗のお坊さんで、越後の庄屋の息子さんだったのですが、どうもこの人も今様に言うとき引き籠りだったらしいですね。この方が、『花無心』という詩を作っております。「花無心にして 蝶を招き、 蝶 無心にして 花を訪ぬ。花 開くとき 蝶来たり、蝶 来るとき 花開く。吾もまた 人を知らず。人もまた 吾を知らず。知らずして 帝則に従う。」

生活しておりますと、何か意識をして、例えばここに蝶々がいる。この蝶々を捕まえようとするとき絶対に逃げられます。蝶々は私の意識を感じるのですね。蝶々だけでなく、蠅だってそうじゃないですか。食卓に来た蠅を捕まえようとするとき逃げますよ。しかし自分の意識がその蠅を捕まえよう、蝶々を捕まえようという意識のないときは、手に止まっているじゃないですか。相手とひとつになるとき、素晴らしい出会いが出てくるのではないかと思います。

私も今日は、こうやって一応坊さんの恰好をして参りました、頭も剃って参りました。こんな恰好をするのは年に1、2回しかないのでございます。普段はいつも作業着を着ていますので、坊さんとはとても思えないのでございます。坊さんとして、曹洞宗の禅僧として呼んでいただきましたので禅僧らしくしないといけないかな、という思いでやって参りました。

私どもの道場は、先ほども申しましたが、自給自足でございます。お寺というものは、やはり需要と供給がございます。仕事もそうですが、ご存じのように少子高齢がお寺にも影響しておりまして、後継ぎがいらないのです。あっちこっちに空き寺が出ております。もしお寺に入りたい方は言って下さい、私がつなぎますから。これはやむを得ません、時代で

す。そういう中で、お寺のお坊さんはお葬式、法事を生業としていましたが、その対象たるお檀家さんが減少しています。収入も減ってきます。お寺さん自体がこれからは、本当に変わらなきゃいけない時代なのです。今までは亡くなった人を対象としていましたが、本当に僧侶の面目たる生きた人と関わっていかないといけないと思います。如何に変っていくか、これが我々僧侶に課せられた使命じゃないかと思っています。

臨済宗では「公案」ということを言います。公案というのは問題集のようなものです。このことについて考えなさい、とテーマをくれる、そのテーマについて一生懸命考える、考えて、考えて、答えを出すのです。私どもの曹洞宗というのはその真逆で「只管打坐」と言います。何にも考えないのです。同じ禅宗でも片一方は何も考えない、片一方は問題に100%取り組む、全く真逆ですね。でも、気が付いたのは「あっ、同じなのだ」と言う事です。

例えば、ひとつのコップにビールをなみなみと注ぎたいと思います。しかしそのコップに少しでも水が入っていたならばビールだけで満たすことは出来ません。そのビールをなみなみと注ごうとすると、そのコップを空にしなければ100%のビールは入らないのです。つまり100%に満たすには元は空でなければならぬのです。「空(くう)」と言いますが、「実」と全く逆なのです。こういうことを私は修業を通して教えて頂きました。ああ、そうなんだな、私たちは切り替えが出来なければならぬ、ある時はゼロになり、ある時は100になる。これが自由自在にできた時に、私たちの考え方と行動が変わっていくでしょう。

そして我々の福祉、就中児童施設での仕事は、生きた人、更には様々な障害のある人とどうやって関わっていくか、支援をしていくか、と言う風に取り組んで行くことが私の修行でもあるのですね。

時間が参りましたので、私の中途半端な話ですけれど、終えさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。一了一

